

## 令和7年度 新収蔵美術品について

1 令和7年度の新収蔵美術品は、以下の計1件です（購入）。

No.	作者名	作品名	制作年	材質技法・形状	寸法 (cm)
1	きむら 木村 立嶽	りゅうとうこうげきひ 柳桐香華貴妃	明治3(1870)年	絹本着彩・軸装	126.0×55.8

現在の富山市出身の木村立嶽の作品を1点購入しました。立嶽は、幕末から明治に活躍した画家で、狩野芳崖、橋本雅邦、狩野勝玉とならんで木挽町狩野家の四天王と称されました。

本作は、狩野派における伝統的な技術を基盤としながら、新しいスタイルを模索していた明治期の傑作です。立嶽壮年期の中国人物図の代表作と位置づけられるでしょう。中国画題としつつも洋画的な写実性や空間表現を取り入れ、細部まで神経の行き届いた描き込みがなされています。柳の表現を見ても並外れた技量を感じます。

白居易の漢詩『長恨歌』の中に、楊貴妃の美貌をたたえながら思慕している一節があります。芙蓉が彼女の顔のようで、宮殿の庭にあった柳は細くしなやかで彼女の美しい眉のようだと比喻しています。そして「春の風に桃やスモモの花が咲く夜も、秋の雨に桐の葉が落ちるときにも、ありし日の楊貴妃を思い出して涙しない日があるか」と記されたその内容を、本作は想起させるようです。

富山ゆかりの重要作家の優品であり、作品購入は願ってもない機会となりました。

2 新収蔵美術品は、今後、常設展示や企画展において、展示公開予定です。

3 作品図版

